



— 6月23日 慰霊の日 —

# 浦添市平和について考えるイベント

浦添市立図書館 ☎(876)4946

●休館日/月曜日

## 沖縄戦関連資料展～平和をつなぐ～

- 開催日/6月28日(日)まで
- 場所/1階エントランスホール

## 沖縄学講座～沖縄本島中部の沖縄戦～

- 講師/豊田 純志氏(読谷村史編集係)
- 開催日/6月13日(土)
- 時間/午前10時～正午
- 場所/2階視聴覚室
- 定員/30人(申し込み順)



申し込みはこちら▲

## 沖縄学講座関連企画～中部の沖縄戦～

- 開催日/6月30日(火)まで
- 場所/2階エレベーターホール

浦添グスク・ようどれ館 ようどれ館 ☎(874)9345

●休館日/月曜日

## ～参加者募集～「前田高地の戦跡巡り」

- 開催日/6月14日(日) ※雨天中止
- 受付時間/午前8時15分～9時
- ※受付次第、随時出発します。



- 到着時間/正午
- 対象/小学生以上(小学生は大人の同伴が必要)
- 集合・解散場所/浦添グスク・ようどれ館駐車場
- 定員/先着50人(要事前申し込み)
- 申込期間/6月11日(木)まで
- 申込方法/浦添グスク・ようどれ館に電話で申し込み
- 料金/大人・子どもともに500円(保険料・資料など) はこちら▲



## ～常設展～ 戦争遺物展

沖縄戦時に日米両軍で激しい戦闘が行われた浦添城跡(前田高地、ハクソー・リッジ)から出土した鉄兜や小銃、水筒などの戦争遺物を常設展示しています。

浦添市美術館 ☎(879)3219

●休館日/月曜日

儀間比呂志・中山良彦

## 『戦がやってきた—沖縄戦版画集—』版画展

沖縄県那覇市生まれの版画家・儀間比呂志が、初めて沖縄戦をテーマに制作した絵本の挿絵版画全25点を一堂に展示し、版画に添えられた中山良彦による文の一部をパネルで紹介。また、前年度に引き続き市文化財課の所有する戦争遺物を展示し、平和の尊さを学ぶ機会とします。

デテコイ・デテコイ1 デテコイ・デテコイ2



- 期間/6月11日(木)～28日(日)
- 場所/企画展示室2・3
- 開館時間/午前9時30分～午後5時※毎週金曜日は午後7時まで
- 観覧料/一般300円・シルバー(65歳以上)240円・大学生200円・高校生以下無料・市民料金、団体料金あり
- ※照明器具取替工事のため、会期中に臨時休室となる場合があります。ホームページ等でご確認のうえご来館ください。

### 【展示作品】

- 版画作品25点・関連書籍・戦争遺物
- 戦争関連DVD放映「もう一つのハクソー・リッジ」

### 【イベント】『戦がやってきた』朗読会

展示室の原画の前で、中山良彦の文を舞台朗読「沖縄可否の会」が朗読する。

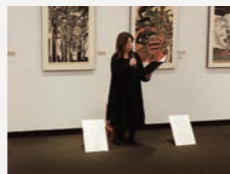
- 朗読日:6月21日(日)
- 時間:(1回目)午後2時～
- (2回目)午後4時～

出演:舞台朗読「沖縄可否の会」

場所:企画展示室3

料金:常設展チケット共通

申込:不要(当日50人を目標とする)



無料 市民参加型イベント 国際交流課 ☎(876)6827

てふー とうと

## 平和ぬ御音スクブンステージ2026

共催:(特非)Okinawa Hands-On NPO

戦争を経験された人々の記憶、語り継がれてきた平和の大切さを歌にのせて、うなあくちで次世代へ伝えます。

- 公演日/6月22日(月)
- 時間/午後5時～
- 場所/浦添市役所市民広場



詳しくはこちら▲

— 平和特集 —

# つなぐ想い、つくる未来

～私たちが想う平和のかたち～

## 中学生平和交流事業

今から81年前、浦添のまちは戦場となり、人々の日常は一瞬にして奪われました。その戦禍の中、一部の子どもたちは家族と離れ、見知らぬ土地へと疎開していきました

浦添市中学生平和交流事業は、そんな戦争の記憶をたどり、平和の尊さを次世代につなぐための事業です。参加するのは、市内中学校2学年の生徒10人で結成された浦添市中学生平和交流団。県内研修を通して地元に残る戦争の跡に触れ、その後宮崎県日向市で行われる研修で、戦時中に浦添国民学校の児童たちが疎開した地を巡り、沖縄から遠く離れた場所でのもう一つの戦争の歴史を学びます。研修を終え、浦添市ピースメッセンジャーに認定された団員たちは、過去から託された平和のバトンを次の世代へつないでいきます。



## 平和への想いを、次の世代へ。

令和7年度の中学生平和交流事業を終え、ピースメッセンジャーに認定された二人からのメッセージ。



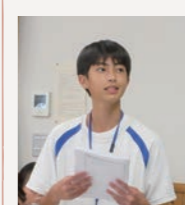
おた このは  
ピースメッセンジャー 仲西中学校 小田 好華さん

私は研修が終わった後、改めて、平和とは、命とは何だろうと考えることが多くなりました。例えばもし、自分が戦争のある時代に生まれていたら生きていけたのかなと考えました。そして、仲間さん(※)達のように次世代の子たちへと話をすることはできるのかなと思いました。世界ではまだ戦争が続いているところがあります。それをどこか遠い話だと思わず、自分の日常と繋げて考えていきたいと思いました。これからは、ピースメッセンジャーとして身近な人から次世代の人へ、たくさん平和の尊さを発信していきたいです。それが平和を実現する一歩だと私は思っています。

※常間 榮安さん:浦添国民学校高等科1年生(12歳)のときに宮崎県岩脇村(現・日向市)へ疎開。



▲県内研修の様子



たましろしん  
ピースメッセンジャー 神森中学校 玉城 瑠臣さん

研修を通して、僕たちの想像を超えるほどの戦争の醜さや辛さ、残酷さを知り、所々言葉が詰まったりする甲斐さん(※)の辛そうな顔を見て、戦争は絶対に起こしてはいけないものだと思いで実感しました。こんな貴重な話を聞けることはもう二度とないと思うし、甲斐さんは思い出したくない過去を僕たちに伝えてくれたから、僕たちは今まで繋いでくれた人たちのこともちゃんと背負い、これからは生きていけることの大切さ、何不自由なく暮らせている幸せを忘れず、幸せで平和な世界がずっと続くように、ピースメッセンジャーとして今できることをやり、後世に平和を伝えていこうと思いました。

※甲斐 誠二さん:浦添国民学校の集団疎開先であった、平岩国民学校(現・日向市)の当時1年生。



▲宮崎県で甲斐さんの話を聞く

## 平和をつなぐ活動

ピースメッセンジャーとして、さまざまな活動を行います。

### 中央公民館出前講座「平和キャラバン」

戦争体験者の高齢化が進み、記憶の風化が懸念される中、「児童生徒が主体的に考える平和教育を」と戦後70年の節目の年に始まったのが、中央公民館出前講座「平和キャラバン」。現在10を超えるプログラムの一つとして、昨年、ピースメッセンジャーOBによる講話が実施されました。「今戦争が起きたら犠牲になるのは—」「本音を言うと、平和学習が苦手でした」大人になったピースメッセンジャーが、等身大の平和を伝え、次の世代を担う現役中学生へ平和のバトンをつなげました。



### 浦添市戦没者追悼式

先の大戦で激戦地となった浦添市。その浦添の地から平和を願い建てられた浦和の塔前では、毎年10月、亡くなられた御霊のご冥福と恒久平和を祈念し、浦添市戦没者追悼式が執り行われます。式にはピースメッセンジャーも参列し、自らの想いを綴った平和のメッセージを朗読します。戦後80年を迎えた昨年は、戦時中を生きた人々の声を代弁し、「私たちのことを学び続けてください。どうか伝え続けてください。」と呼びかけ、その願いを受け継いでいくと平和への決意を新たにしました。

